

「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」結果（概要）

1 調査の目的

本格的な高齢社会を迎え、国民の一人一人が長生きして良かったと実感できる社会を築き上げていくためには、就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境等に係る社会システムが高齢社会にふさわしいものとなるよう、不断に見直し、適切なものとしていく必要がある。

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付高齢社会対策担当では、高齢社会対策の施策分野別（5分野）について一般高齢者の意識に関する総合的な調査を行う「高齢者対策総合調査」を各分野別に原則5年毎に計画的に実施しており、本年度は、昭和63年度、平成5年度、平成10年度、平成15年度、平成20年度に引き続き、第6回目となる「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」を実施したものである。

本調査は、地域社会への参加に関する高齢者の意識を把握するとともに、前5回の調査と時系列分析を行い、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的とする。

2 調査対象者、調査事項、調査方法等

（1）調査対象者

全国の60歳以上の男女

（2）調査方法

調査員による面接聴取法

（3）調査事項

1. 日常の意識に関する事項
2. 社会参加活動への考え方に関する事項
3. 地域活動への考え方に関する事項
4. 世代間交流の意向に関する事項
5. 高齢者政策や支援に関する事項

（4）調査実施期間

平成25年11月14日～11月24日

（5）標本抽出方法

層化二段無作為抽出法

(6) 標本数、有効回収数、回収率

1. 標本数, 有効回収数, 回収率

標本数 3,000人

有効回収数 1,999人 (66.6%)

2. 調査不能数, 不能内訳

調査不能数 (率) 1,001人 (33.4%)

不能内訳

転居	64	長期不在	86
一時不在	224	住所不明	26
拒否	491	その他	110

(7) 調査委託機関

一般社団法人 新情報センター

(8) 調査の協力者

本調査は、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）の委託研究の一環として、一般社団法人 新情報センターが以下の学識経験者の協力を得て実施した。

澤岡 詩野 (公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員)
杉澤 秀博 (桜美林大学大学院老年学研究科教授)
直井 道子 (桜美林大学大学院老年学研究科特任教授)
安村 誠司 (福島県立医科大学医学部教授)

(50音順、敬称略)

3 調査対象者の基本属性

(1) 性別・年齢層構成 (F1・F2)

	総 数	性 別		年 齢 層				
		男 性	女 性	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 歳 以 上
平成25年度 総 数 (人)	1,999	927	1,072	457	501	431	315	295
構 成 比 (%)	100.0	46.4	53.6	22.9	25.1	21.6	15.8	14.8
平成20年度 総 数 (人)	3,293	1,551	1,742	849	850	696	517	381
構 成 比 (%)	100.0	47.1	52.9	25.8	25.8	21.1	15.7	11.6
平成15年度 総 数 (人)	2,860	1,251	1,609	693	692	650	490	335
構 成 比 (%)	100.0	43.7	56.3	24.2	24.2	22.7	17.1	11.7
平成10年度 総 数 (人)	2,303	1,069	1,234	704	646	505	267	181
構 成 比 (%)	100.0	46.4	53.6	30.6	28.1	21.9	11.6	7.9
平成 5年度 総 数 (人)	2,385	1,097	1,288	774	679	494	298	140
構 成 比 (%)	100.0	46.0	54.0	32.5	28.5	20.7	12.5	5.9
昭和63年度 総 数 (人)	2,451	1,109	1,342	832	613	509	319	178
構 成 比 (%)	100.0	45.2	54.8	33.9	25.0	20.8	13.0	7.3

(2) 現在の職業 (F6)

	総 数	仕事 をして いる (計)	自営業		被用者				そ の 他	仕事 はし てい ない
			従 業 者 を 含 む (家 族)	自 営 業 「商 工 サ ー ビ ス ・自 由 業 」 (家 族 従 業 者 を 含 む な ど)	常 勤 の 被 雇 用 者	除 く (会 社 の 被 雇 用 者 を 除 く)	・契 約 ・ パ ー ト ・ 派 遣 ・ 臨 時	内 職		
平成25年度 総 数 (人)	1,999	697	77	228	117	42	212	16	5	1,302
構 成 比 (%)	100.0	34.9	3.9	11.4	5.9	2.1	10.6	0.8	0.3	65.1

4 調査結果の概要

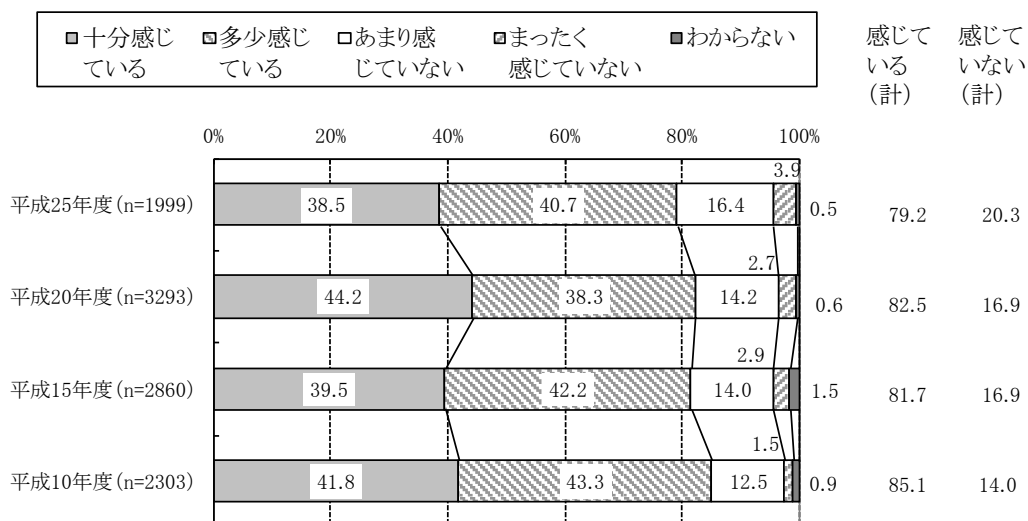
1. 日常の意識に関する事項

(1) どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じているか

- ・ 生きがいを「感じている」（「十分感じている」と「多少感じている」の合計）と回答した人は、全体の約8割（79.2%）となっている。
- ・ 時系列で見ると、生きがいを「感じている」と回答した人は減少傾向がみられる。
- ・ 年齢層別に時系列で見ると、60代と70代では生きがいを「感じている」と回答した人が減少傾向だが、80代以上では増加傾向がみられる。

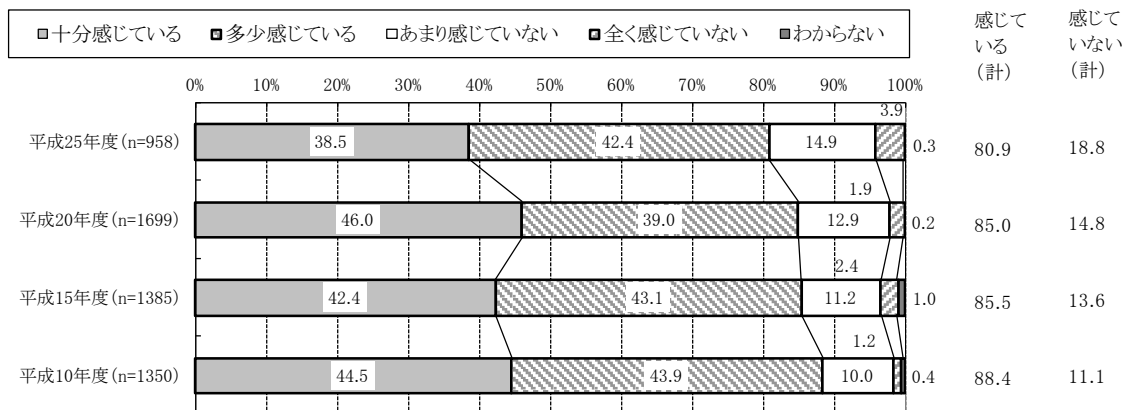
Q1 「あなたは、現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。」

(時系列・総数)

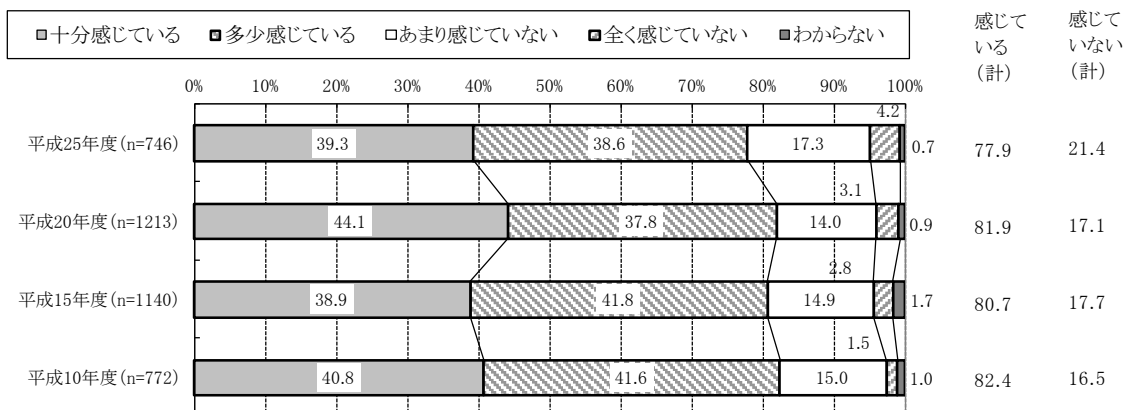


Q1 「あなたは、現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。」

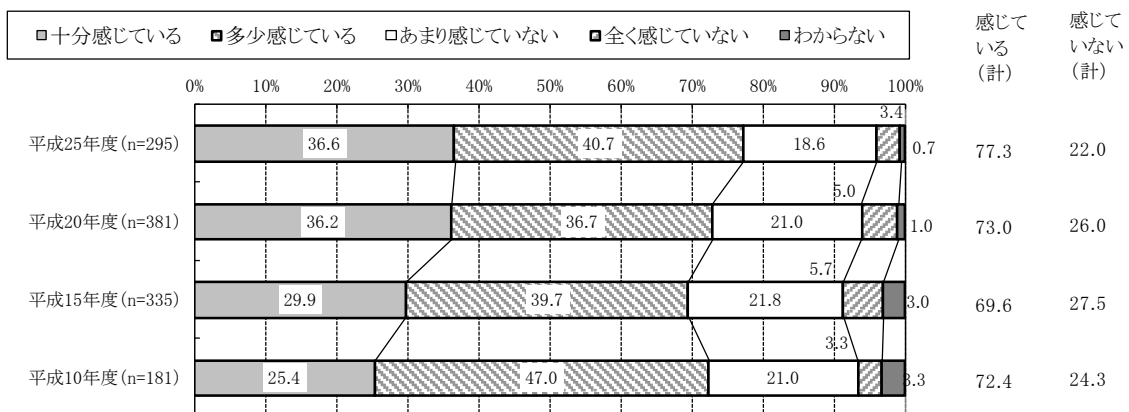
(時系列・60代)



(時系列・70代)



(時系列・80代以上)



(2) 生きがい（喜びや楽しみ）を感じる時

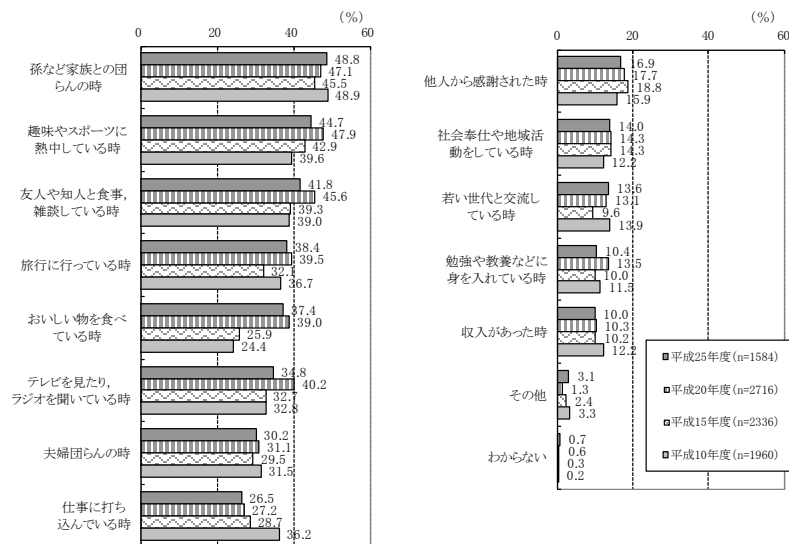
- ・ 生きがいを感じる時は、「孫など家族との団らんの時」（48.8%）が最も多い。
- ・ 時系列でみると、「仕事に打ち込んでいる時」に生きがいを感じる割合は減少している。
- ・ 男女別に比較すると、女性は男性に比べ「孫など家族との団らんの時」（55.4%）、「友人や知人と食事、雑談をしている時」（50.9%）、「おいしい物を食べている時」（44.4%）に生きがいを感じている。また、男性は女性に比べ「趣味やスポーツに熱中している時」（49.0%）に生きがいを感じている。

〔Q1で生きがいを「感じている」と回答した人に〕

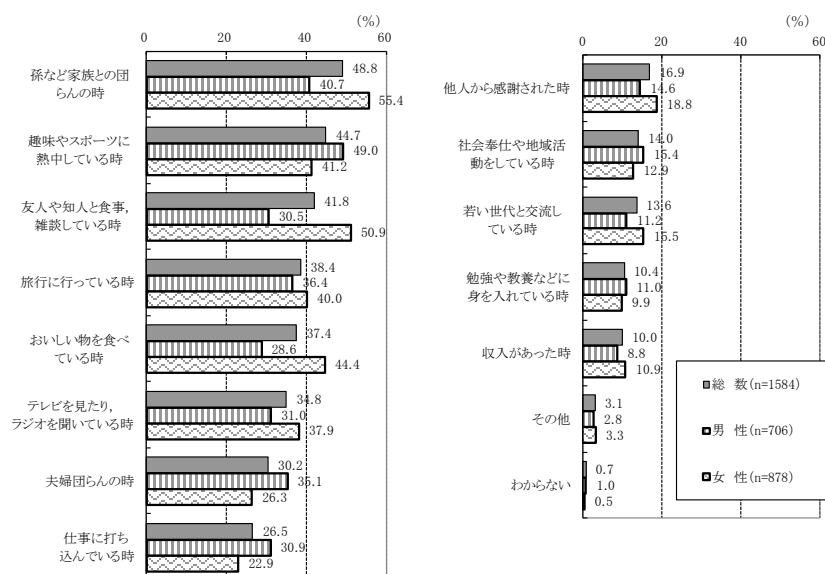
Q1－SQ1「あなたが生きがい（喜びや楽しみ）を感じるのはどのような時ですか。」

（複数回答）

（時系列・該当数）



（平成25年度・男女別）

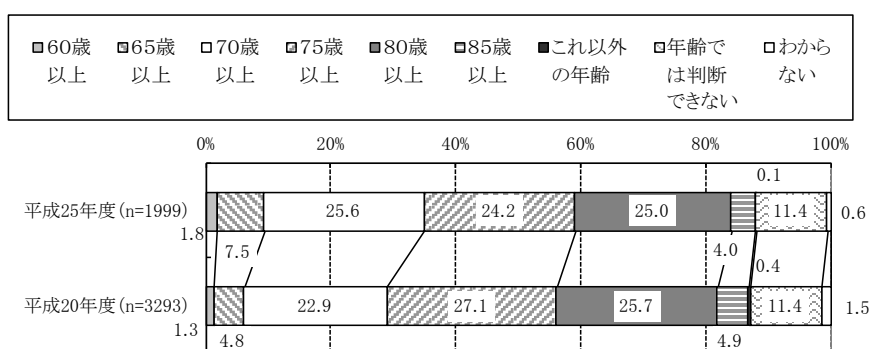


(3) 支えられるべき高齢者の年齢

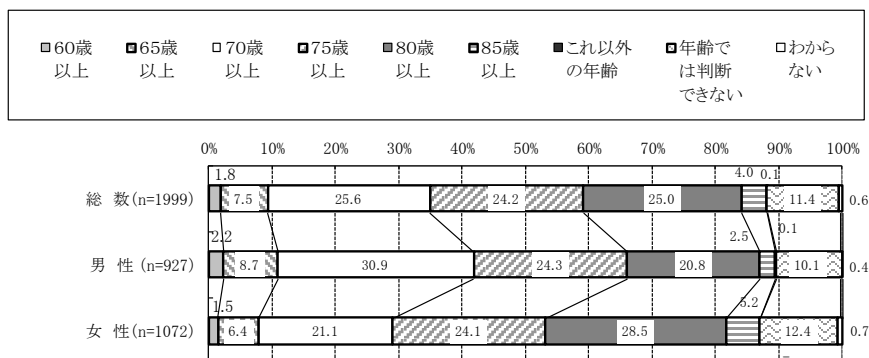
- ・支えられるべきと思う高齢者の年齢は、「70歳以上」(25.6%)が最も多い。
- ・時系列で比較すると、平成25年度調査では「70歳以上」(25.6%)が最も多いが、前回(平成20年度)調査では「75歳以上」(27.1%)が最も多かった。
- ・男女別に比較すると、男性では「70歳以上」(30.9%)が最も多い。一方、女性では「80歳以上」(28.5%)が最も多く、男性に比べ、女性の方が支えられるべきと思う高齢者の年齢が高い傾向がみられる。
- ・年齢層別に比較すると、最も多いのは、60代では「70歳以上」(28.7%)だが、70代と80代以上では「80歳以上」(70代:26.8%、80代以上:29.8%)であり、年齢が高くなるとともに、支えるべきと思う高齢者の年齢が高くなる傾向がみられる。

Q2 「あなたは、一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思いますか。」

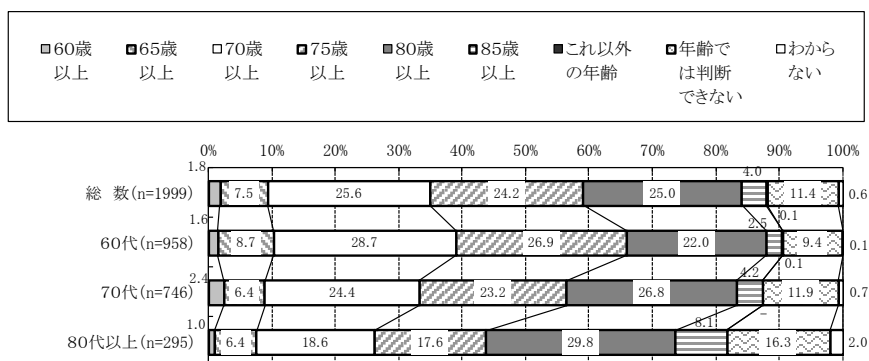
(時系列・総数)



(平成25年度・男女別)



(平成25年度・年齢層別)

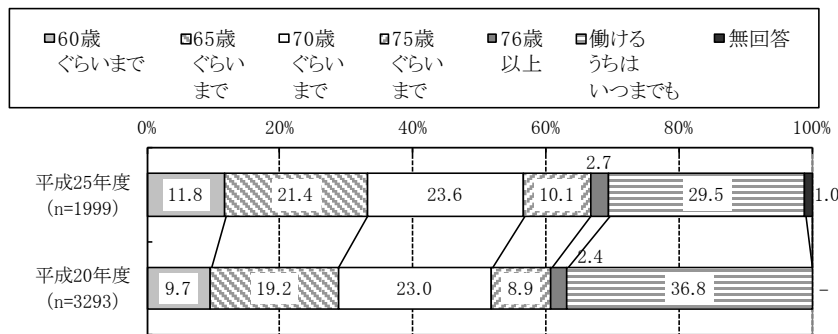


(4) 就労希望年齢

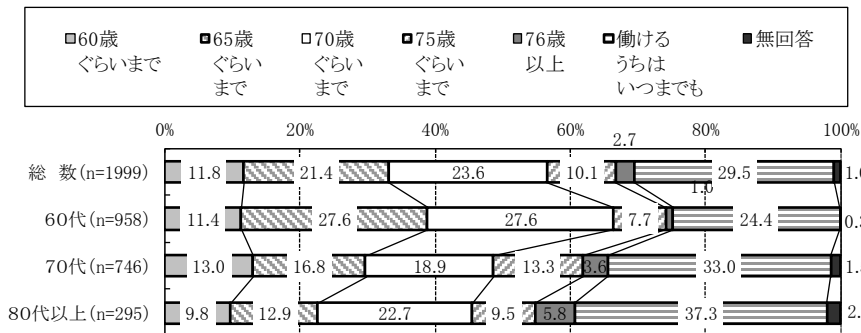
- ・ 仕事をしたいと思う年齢は、「働けるうちはいつまでも」(29.5%)が最も多い。
- ・ 時系列で比較すると、平成25年度調査も前回調査も「働けるうちはいつまでも」が最も多いが、その割合は、前回調査36.8%から平成25年度調査29.5%へと減少している。
- ・ 年齢層別に比較すると、最も多いのは、60代では「60歳くらいまで」及び「65歳くらいまで」(27.6%)だが、70代と80代以上では「働けるうちはいつまでも」(70代：33.0%、80代以上：37.3%)であり、年齢が高くなるとともに、仕事をしたいと思う年齢が高くなる傾向がみられる。
- ・ 仕事の有無別にみると、現在仕事をしている人の約4割(37.4%)は「働けるうちはいつまでも」仕事をしたいと考えている。

Q3 「あなたは、何歳ごろまで仕事をしたいですか。」

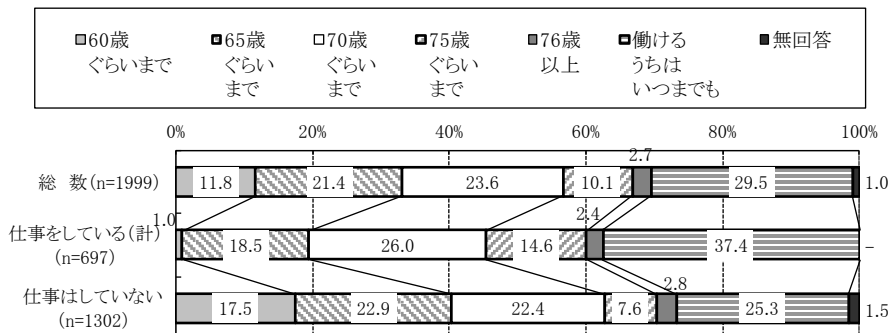
(時系列・総数)



(平成25年度・年齢層別)



(平成25年度・仕事の有無別)



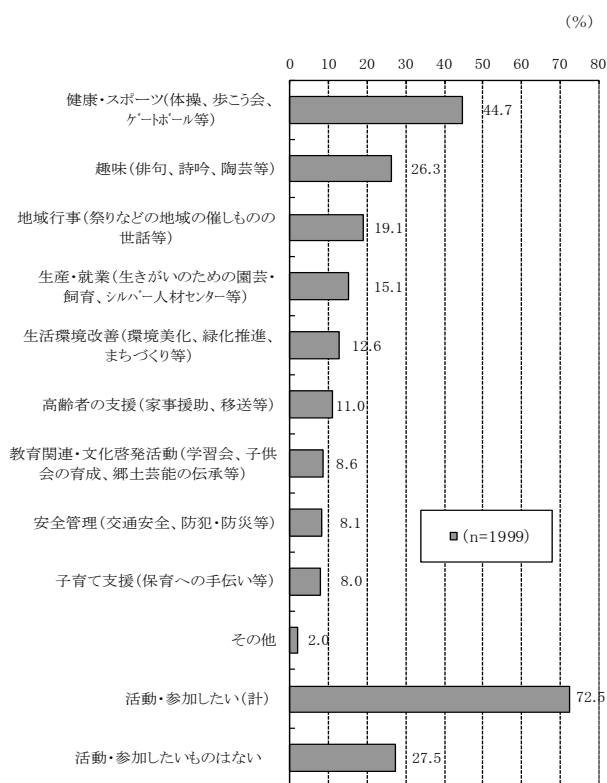
2. 社会参加活動への考え方に関する事項

(1) 参加したい活動

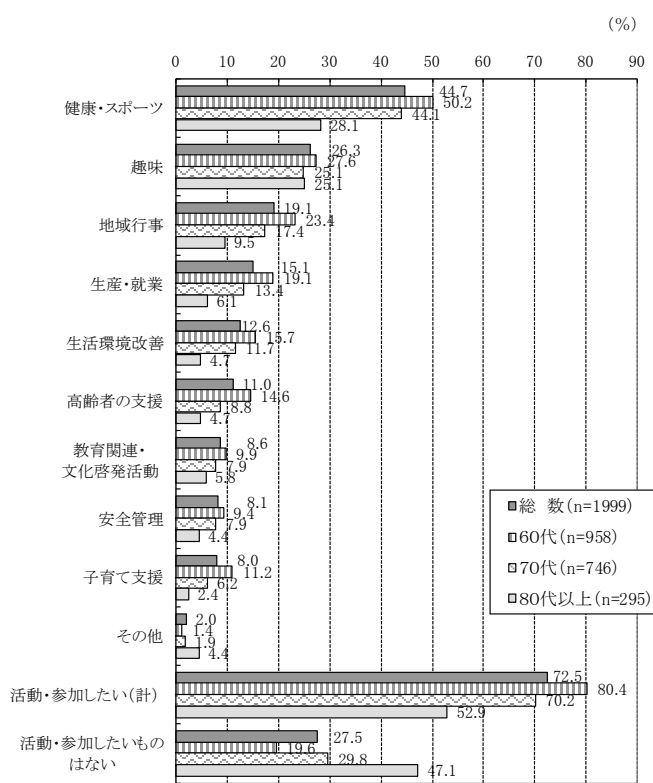
- ・個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われているもので参加したい活動は、「健康・スポーツ」(44.7%)が最も多い。
- ・「活動に参加したい(計)」(いずれかの活動に参加したい)と思っている人は、約7割(72.5%)となっている。
- ・年齢層別にみると、60代で「健康・スポーツ」に参加したいと思っている人は、約半数(50.2%)となっている。
- ・年齢層別に比較すると、「活動に参加したい(計)」と思っている人は、60代では約8割(80.4%)だが、70代では約7割(70.2%)、80代以上では約5割(52.9%)であり、年齢が高くなるとともに減少している。

Q5 「あなたは、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行いたい、または参加したいと思いますか。」(複数回答)

(平成25年度・総数)



(平成25年度・年齢層別)

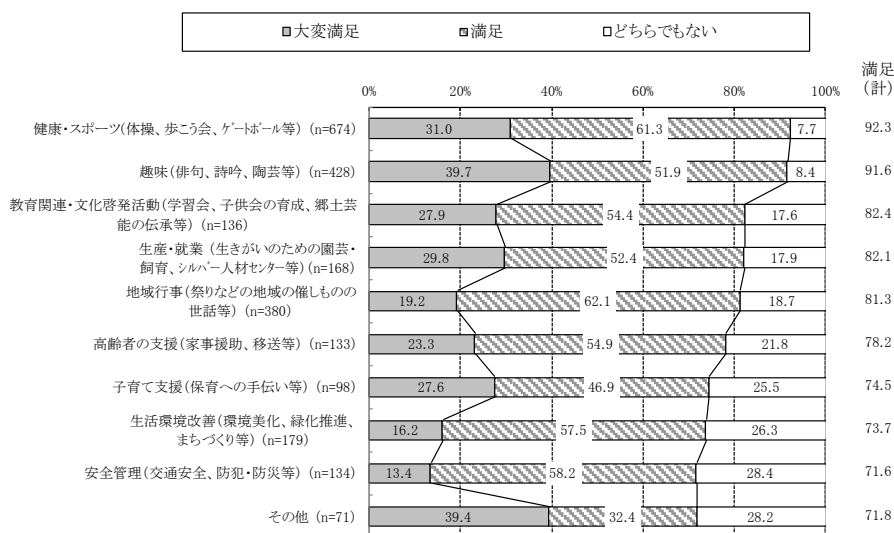


(2) 参加している活動の満足度及び参加している活動

- ・この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体に自主的に行われている活動に参加したものの満足度（「大変満足」と「満足」の合計）は、「健康・スポーツ」（92.3%）が最も高く、次いで「趣味」（91.6%）が高い。
- ・参加している活動を時系列でみると、「健康・スポーツ」は年々増加傾向にある。また、「参加したことがある（計）」（いずれかの活動を行った、または参加した）人も年々増加傾向にあり、平成25年度調査では6割を超える（61.0%）。

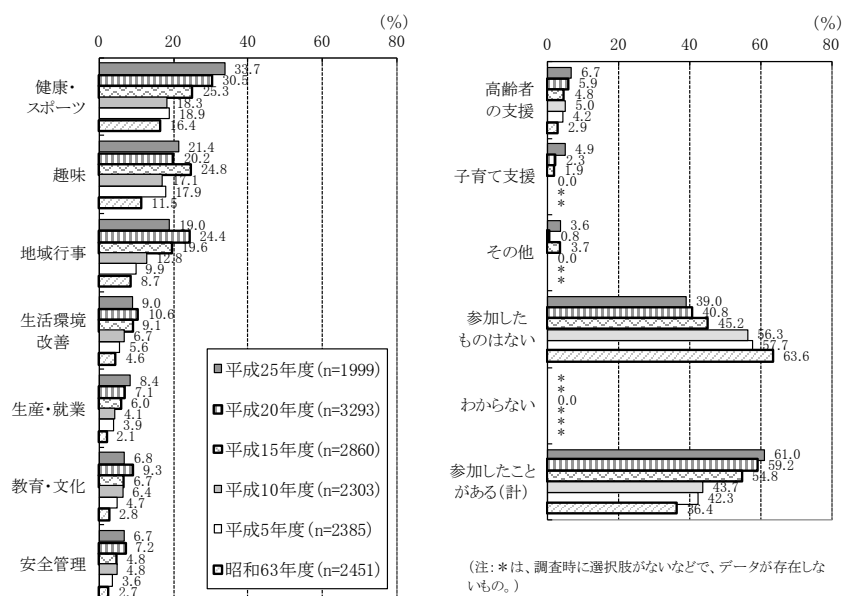
Q6 「あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体に自主的に行われている次のような活動を行った、または参加したのについてどのくらい満足していますか。」
（複数回答）

（平成25年度・該当数）



(時系列・総数)

*平成25年度については、Q6で回答のあったものを「参加している活動」とみなした場合



(注: *は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。)

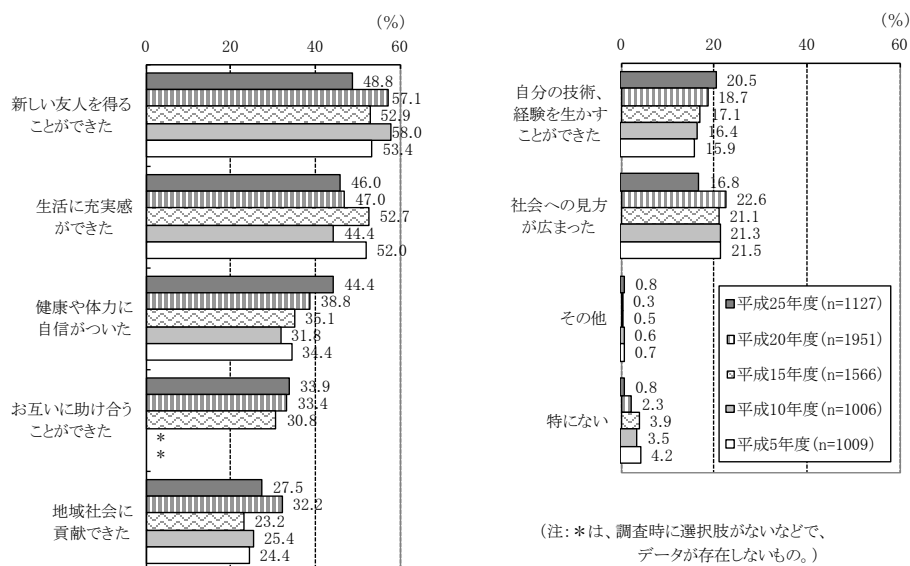
(3) 活動全体を通じて参加して良かったこと

- ・活動全体を通じて参加して良かったと思うことは、「新しい友人を得ることができた」(48.8%)が最も多く、次いで「生活に充実感ができた」(46.0%)が多い。
- ・時系列でみると、「健康や体力に自信がついた」、「お互いに助け合うことができた」、「自分の技術、経験を生かすことができた」は増加傾向がみられる。
- ・男女別に比較すると、女性は男性に比べ「新しい友人を得ることができた」(男性:44.6%、女性:52.4%)や「生活に充実感ができた」(男性:41.7%、女性:49.6%)と思う割合が多く、約半数の女性がそう思っている。

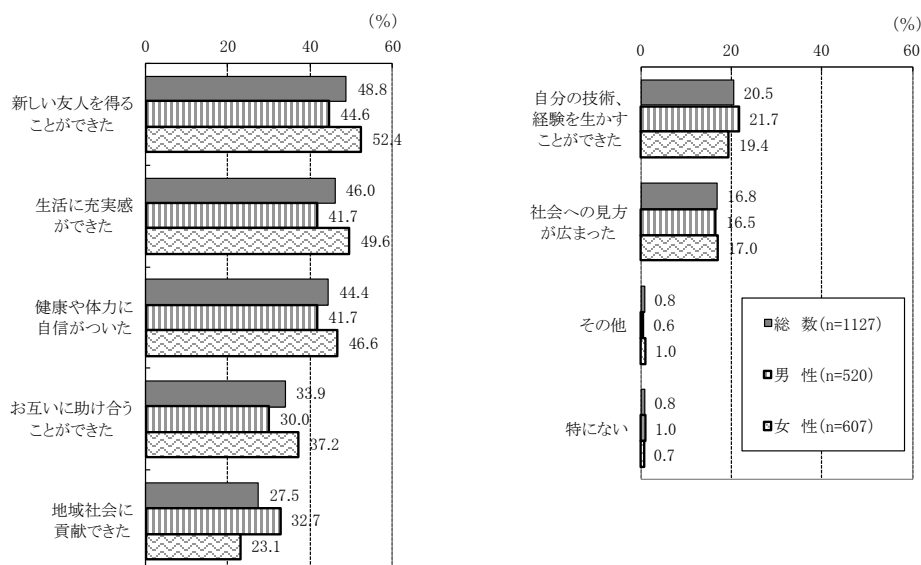
[Q6でいずれかの活動を行った、または参加したと回答した人に]

Q6-SQ1「あなた自身にとって、そのような活動全体を通じて、参加して良かったと思うのはどのようなことですか。」(複数回答)

(時系列・該当数)



(平成25年度・男女別)



(4) 活動に参加するきっかけになると思うもの

・自主的に行われている活動(Q6)に参加するきっかけになると思われるものは「友人・仲間のすすめ」(26.4%)が最も多い。

[Q6で「活動・参加したものはない」と回答した人に]

Q6-SQ2「あなたは、どのようなきっかけがあれば、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動に参加すると思いますか。」(複数回答)

(平成25年度・該当数)

